道徳通信

灯火

（あかり）

熊谷市立大里中学校
○心豊かな生徒　（学校教育目標より）
命を大切にし、他を思いやり、
夢に向かって努力する子どもたちに

第３号　平成２４年１１月６日

たまにはじっくりと考えたい

１１月に入りだいぶ陽が短くなってきました。この道徳通信の見出しの‘灯火’にふさわしい時季となってきました。‘心のあたたかい灯火’と感じられるそんな話題をこれからも紹介していきたいと思います。

今月の下旬になると**‘後期の人権週間’**が始まります。昨今‘いじめ問題’で揺れている教育現場。この機会にもう一度、**人間の尊厳・命の尊さ・仲間の大切さ**などについてじっくりと考えていくのも大事なことです。

今回は、前期の人権集会（講演会）時の生徒の感想文を紹介したいと思います。

今日の人権講演会では、ある町や小学校のようすを表した絵を見て、おかしいと思う点や危険だと思う点、心配だと思う点を見つけることや、また、それをどのようにすれば改善できるか考えることをやった。私はこの作業をやったときに、何点か見つけることができなかったものがあった。見つけられなかったということは、自分にとって特に気にかかることでもなく、大丈夫だろうと思ってしまったからだろうと後で思った。

今回の話でも、人権問題は思った以上に自分の身近にあることがわかったが、この作業を行ったことで、自分がどれだけ身近に起こっている人権問題について理解していないか、注意して生活していないか、ということを改めて知ることができた。今回の人権講習会で、このようなことに気づくことができたので、とてもよかったと思う。また、自分の身近にいじめや人権にかかわることを見つけたら注意していけるように、人を傷つけるようなことを自分でもやらないように、毎日の生活の中で十分に注意していければ良いなと思います。

どんな思いで・・・・

９月１１日の下校時でした。本校生徒５，６名が自転車を降りてひとかたまりに。みんな、一緒に帰る友だちの自転車修理を待っているようでした。よく見ると地域の男性の方が、自転車の後輪に巻き付いたゴムひもを、**手の汚れを気にせず一生懸命**素手で取り除いてくれていました。そして、切れて短くなったゴムひもを使い、その生徒が安全にカバンを持ち帰れるようにしばり直してくれ、さらにその生徒**たちがその場から立ち去るまで見守ってくれていました。**その男性も自転車での**用事の途中**のようでした。どんな思いで懸命に生徒たちを助けてくれたのか？お名前も伺えずたいへん失礼をしてしまいました。地域に支えられ・守られてた印象深い光景でした。

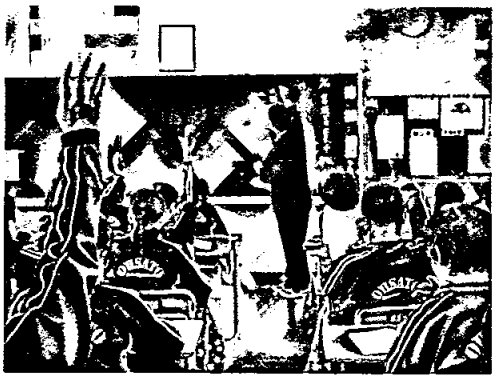
シリーズ『授業探検』

シリーズ「授業探検第３段」は１年Ｂ組の道徳授業の様子です。授業者はもちろん担任の大塚先生。道徳の授業を通して学級の問題を生徒にじっくり考えてもらいたいとの先生自身の強い思いを得ての今回の授業になりました。

今回の授業テーマは「誠実」です。自分の気持ちに正直に生きることがその後の‘すがすがしい生き方’につながるとともに、周囲の人間を傷つけることを最小限に食い止めることができることを感じ取らせるテーマです。

資料名「裏庭での出来事」

話の内容は



昼休み主人公の健二と大輔、雄一は体育館裏の狭い裏庭でサッカーをすることに　その時一匹の猫が鳥の巣に侵入しようとした。雄一はそれを助けようとサッカーボールを猫めがけて投げたところ、物置のガラスを割ってしまう

↓

雄一、「いいことをしたんだから、少し遊んでから報告に行けばいいよ」という大輔の言葉を振り切って職員室に向かった。残された健二と大輔はボール蹴りを始めてしまい、そのうちに健二が蹴ったボールがさっき割った隣のガラスを割ることになってしまう。そこに雄一が松尾先生を連れて帰ってきた。

↓

雄一は２枚目のガラスが割れていたことに気づきながらも、松尾先生にガラスを割った事情を説明し始めた。そこへ大輔が割って入り雄一の正当性を強調する説明を行う。その後、松尾先生が戻った後に雄一が２枚目のガラスの経緯を知り、「なんだよ、汚ねえなあ。２人でやったことを俺の割ったガラスに便乗させて。おまえら、調子が良すぎるぜ」と憤慨する。

↓

その後、好きな授業にも身が入らなくなった健二。授業が終わった放課後、大輔に「先生に言いに行こうと思うんだ。」と言う健二に大輔は「俺を出し抜いて先生のところなんかに行くなよ。俺の立場が悪くなるじゃないか。」　健二から離れていく大輔。

↓

次の日、健二は重い足取りのまま、学校へ向かう。

今回、大塚先生は、生徒たちが‘本時のねらいの道徳的価値’にどの程度気づいているのかを把握するため、また、さらに自分の事として深く考えさせていくために、道徳の流れの‘見つめの段階’で、あえて「あなたが健二だったら、次の日に何ができますか？」という問いで、今回の授業をまとめようとしていました。

生徒の意見には「先生にあやまる」「雄一君にあやまる」など周囲への配慮的な発言等もあり、不誠実さの‘負’の部分をしっかり感じ取っていた生徒も多く見られました。

資料を使っての道徳の授業では、主人公の価値の変容が何によって行われたかが大事になります。高い価値に気づく・高い価値に触れる、それら主人公の心を揺さぶる部分の明確化が授業の背骨になってきます。

それにしても、１Ｂの生徒たちの屈託のない自由な発言は、道徳授業の根幹（本音で自由に意見を言い合える集団）をもはやなし得ているよい学級と思われます。今回は公開方式で行われましたが、参観する方にとっても、たいへんに実りのある授業でした。